

## 第2回高精度測位技術を活用した公共交通システムの高度化に関する技術開発研究会

### 1. 日時

平成28年3月14日（月） 16:00～18:00

### 2. 場所

中央合同庁舎3号館4階 特別会議室

### 3. 出席者（順不同、敬称略）

石田座長、寺田委員、坂下委員、梶山委員、小里委員、須藤委員、その他国土交通省等関係者

### 4. 議事

- (1) 今年度の事業の結果について
- (2) 今後の事業の方向性について
- (3) その他

### 5. 議事要旨

○研究実施者から、議事（1）について説明後、質疑応答及び自由討議が行われた。

- ・今後、車載器の小型化が必要と考える。さらに、2年目以降に向けて、例えば、「ごみ収集車、高齢者の送迎バス、幼稚園のバスなどが近づいてきたときに利用者に対してそれを通知する仕組み」などにも有効だと思うので、そのような他の利用も考えていただきたい。観光庁のアンケートでは、外国人旅行者が困っているものの「第3位：公共交通経路の入手」、「第4位：乗り方や利用料金」、「第6位：乗り場情報の入手」であり、本事業は、これらを解決する手段だと思う。今後、外国人の方々が自分の居場所がどういったらわかるのかということに注力をして進めていただきたい。
- ・高層ビル街で精度が良くなるということだが、今回の場合、高層ビル街が始発なので利用者の利便性向上には繋がらないと思う。交通結節点の乗換案内について、スマホや看板などの様々な方法が考えられるので、その組み合わせも含めて検討が必要。
- ・日本では最初に1カ所で案内が出ているが、その後の案内が無いと言われることがある。本事業をうまく活用すればその解決に繋がるのでは、と思う。ビーコンを設置した場合、電源などのメンテナンスをどのようにするのか、という運用面の検討も必要。
- ・GPSだけを用了従来の車載器の測位のばらつきに驚いた。
- ・例えば、EUは色々な国で全体のシステムインテグレーションを議論する際、中期的な未来図のようなごくごく粗いものしか決めず、その後、各国のシステムの入替えのタイミングでその未来図にあわせていくというやり方をやっている。難しいと言っているだけでは、進まないで、そのようなビジョンも検討いただきたい。

○事務局から、議事（２）について説明後、質疑応答が行われた。

- ・方向性その他について異議なし。一方で、精度が上がってもそれをプロットする地図が無いという状態（10メートルで円内にいるといっても、10メートルの円内にプロットできる地図がまだない等）が課題であり、その整備も、あわせて検討していく必要がある。また、バス運行データは、交通情報などを作成するときに非常に有効なデータであり、それが「高精度」「リアルタイム」になるということは、交通関係の利活用において、変革が起きる可能性があると考え。更に、オープンデータの意味合いは様々な主体が保有するデータを出し合い利用するシェアリングエコノミーの一環だと考えており、同業他社が、お互いのデータを出し合って、社会全体のコストを下げしていく／効率を上げていくという観点も社会基盤整備について重要な観点と思う。
- ・次年度の実証実験の場としては、高層ビル街以外も検討してほしい。
- ・我々バス事業者は、どう今のバスに付加価値をつけようか、と考えてバスロケーションシステムを設置し始めたが、既に東京都内では、大手の事業者は付けており、差別化の域を超えたとの認識。次のステップとして、バス会社関係なく、どのバスでも移動の状況みたいなものがわかるような仕組みづくりを低価格で普及をさせ、さらに、地方に行っても同じ仕組みというのが、理想的と考える。長期的なビジョンでは、バスの情報をどう提供しようかという視点が、これから大事になってくると思う。
- ・発災時にいいことがないかという視点と、バス専用レーンになっているときに、そこに自転車が走る場合にお互いの存在を知らせるようなことができないかという視点での検討をいただきたい。
- ・高精度衛星等によって精度がよくなるというのは理解したが、乗客などの具体的なサービスの改善ということでは、限界があると思うので、ただ精度を上げれば良いというものでもないと思う。さらに、誰がどこまでやるかということをきちんと考えておく必要がある、民間のトライアルなどが、今後ますます深化していくと思うので、それらの活用を考えながら、来年度の事業内容の役に立つところほどの部分かを考えていただきたい。シェアリングエコノミーの検討の際にセキュリティの問題を考えることも大事。
- ・参考資料に「誰もが動きやすい国、日本」との記載があるが、その究極の姿は「地図を見ないで移動する」ことと思う。国土交通省の取り組みは、さまざまなものが組み合わさって、高精度な地図というものを手にしなくても移動ができる社会を目指しているものではないかと思う。ぜひビジョンをつくってその具体化に向けて、産・官・学で連携して、一緒に動く体制を構築していただきたい。

○事務局から、議事（３）について説明。（特段の意見なし）